

長根だより

令和7年6月15日

6月号

長根小 学校通信

【校訓】 強く 明るく よく励む

開校60年記念 長根芸術祭2025

長根小学校長 三宅 勝之

梅雨に入り、子どもたちは外で思いきり遊べず、少し不満そうな様子も見られますが、一方で、子どもたちが植えた花や野菜にとっては、大きく成長する大切な時期でもあります。外遊びが難しいこの時期は、室内での読書に親しんだり、将棋やオセロなどを通じて友達と交流を深めたりする経験も、子どもたちにとって貴重な学びとなります。

さて、1966年(昭和41年)に開校した長根小学校は、今年度で開校60年を迎えます。60年といえは、「還暦」。かつては一区切りの節目でしたが、「定年延長」や「生涯現役」といった言葉が一般的になった現代では、60年は「まだまだこれから」といった印象かもしれません。

この節目の年を記念し、今年度「長根芸術祭2025」を開催いたします。先日は、国際芸術祭「あいち2025」に参加予定の「マユンキキ+」から、マユンキキさんとhoshifuneのお二人をお招きし、影絵パペットづくりやアイヌの歌のワークショップを実施しました。その後の公演では、子どもたちが制作した影絵パペットが実際に登場し、一緒に歌を披露する場面もありました。子どもたちの振り返りからは、表現することの楽しさや、自分らしい表現の大切さに気づく様子がうかがえました。

今後も、愛知県陶磁美術館とのコラボレーション企画や、地元・瀬戸出身のアーティストとのワークショップなど、魅力的な取り組みが目白押しです。こうした多様な芸術体験を通じて、子どもたちが自らの感性を磨き、自由に、そして自信をもって表現できる力を育てていけるよう、これからも学校全体で取り組んでまいります。開校60年という節目の年にふさわしい、豊かで実りある一年となるよう、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

みらい こと
未来につながる子どもたちへ No.84

かげえ
ほしふねさんの影絵から

ほしふねさんの影絵のワークショップで、「影絵は同じパペットでも、光の当て方によって大きくも小さくもなる」という言葉が印象に残りました。何事も、見る方向や考え方によって、同じものでもまったく違って見えることがあります。一つの考えにとらわれず、光の当て方や見方を変えてみることで、さまざまな考え方を理解しつつ、自分らしく表現することを大切にしていきたいものです。